

『レディ・イヴ
—The Lady Eve—』

(1941年公開)

※DVDレンタル・販売あり

アマゾン帰りの御曹司に女詐欺師が
恋を仕掛けるつもりが本気に……

今回紹介の「レディ・イヴ」は1941年アメリカ公開、日本では制作から54年遅れの、アメリカ国立フィルム登録簿に登録された1994年に「淑女になったイヴ」のタイトルでテレビ放映された映画だ。

「スクリーンボール・コメディの傑作」と呼ばれたが、テレビドラマ「家なき子」が大ヒットした94年の日本でスクリーンボールと言われてもピンと来なかつただろうし、どのくらい傑作なのかも分からなかつただろう。現在もまた然り。スクリーンボールとは野球における変化球の一種のひねり球で、転じて奇人・変人の意味を持つ。常識外れで風変わりな男女がケンカしながら恋に落ちるというストーリーで、映画のジャンルの一つである。時を超えて男女が入れ替わるアニメ映画「君の名は」(2016年公開)もこのジャンルに含

まれるだろう。

「ヒールが折れたから
せめて部屋まで送って」

蛇の若き学者チャーリーは、アマゾンでの1年間の研究を終えた。王冠の形のチープな煙突のボートを豪華客船に横付け、はしこで乗り移ろうとした時、上から食べかけのリンゴが降ってくる。新参者見物しながらカモにできるか見定めていた美人詐欺師がわざと落としたものだった。リングゴは見事チャーリーの頭の中。すぐに顔を上げた彼は、誰が落としたか分かつただろうか？ 多くの人たち、特に女性達が客船から顔を乗り出していた。そんな多勢の中に、一人だけ無邪気な笑顔を见せていた美しい彼女の姿を、彼は世界のどこかで捉えたに違いない。

その理由を述べさせてほしい。

まず作中の船名だ。ニューヨークを発着港に南米大陸をぐるりと回るサザン・クイーン号。南の女王号には、クイーンの名が掲げられている。現在でも、1940年でも「クイーン」の豪華客船は、キュナード社の船であると言っても過言ではない。

作中の豪華客船の最初の登場は遠景の側面だが、2本の煙突はつきりと分かる。そして煙突のアップとともに汽笛の音。この音で船が判明できる耳と経験があれば……。残念ながら私は持ち合わせていなかった。

次に登場する外観はやはり遠景で、正面なので重なつてよく見えないが、煙突は3本ある。どちらのシーンもボディは黒色と思われる濃色で、上部は少し幅広の白色のようだ。白黒映画なので色も憶測でしかない。ニューヨークに到着シーンでは側面で前方半分のみ登場。煙突は2本しか出ていないが、2本船にしては2本の間隔が近すぎる。まるであと1本、後方にあるかのように。劇中の2本煙突の船は「クイーン・エリザベス号(初代)」、3本煙突は「クイーン・メリー号」にとてもよく似ている。

場面は変わり、ディナーのメインレストラン。パークウンターには今夜はバイク・ビールの注文ばかり来る。それもそのはず、チャーリーはバイク・ビール会社の御曹司でお金持ち、若くて見た目もなかなか。多くの女性やその親がテーブルにバイクのボトルを並べ、彼の気を惹こうとしているのだ。

その熱い視線は、奥手で蛇にしか興味のない彼にとっては、変に注目されているだけの居心地悪いもので、一人テーブルで本を読みながらも段々落ち着かなくなってくる。その場から足早々と離れようとした彼は、何かにつまずき、転んでしまう。「気をつけて」と凛とした態度で話しかけてきた若い女性が、実はわざと足を出していたのだ。「ヒールが壊れたわ」すまなかつた「せめて部屋まで送って」そうします。僕はバイク「みんな知っているわ。こちらは父、私はジーン」。他の女性たちとは違う、媚びがなくテキパキした態度。転んだ恥ずかしさと、ヒールを壊した罪悪感を帳消しにしてくれる彼女からの申し出は、彼にとって救いになった。壊れた靴でバランスが悪

船内はクイーン以外の
船でリアリティ演出

クイーン・メリー号は1939年9月ニューヨーク到着の際に第二次世界大戦が勃発、クイーン・エリザベス号は1940年2月ドイツ諜報員の目を逃れるためニューヨークへ到着した。クイーン2隻がニューヨーク港に引き留められていた頃と、「レディ・イヴ」の撮影時期が重なる。戦争のため多くのオーシャンライナーが運行中止になっていた時期に、最高級の豪華客船が映画の物語の舞台ニューヨークにいる。クイーン・エリザベス号は3月に就航したばかりの世界最大の船だ。映画のタイトルは、ジーンがチャーリーに再会するために扮するイギリス貴族の娘「レディ・イヴ」の名で、イギリスのクイーンの船がびつたりだ。ダメ元で映画撮影を依頼しない手はない！ しかし、協力は表立ってはできなかったのだろう。戦時中であり、もうしばらくすると両船は軍役につくのだから。もしかしたら許可なし撮影と使用だったのかもれない。そう思えるほど、船体映像は遠景だったり不鮮明だったりで、どの船が分かりにくいのだ。作中の船にクイーンの名前を使ったのは、敬意を

ジーンの誘惑にじっと
耐えるチャーリー

(イラスト：吉崎 英二郎)

いのを理由に、彼の腕をしっかりと組みながら、「奇妙な出会いね」と笑顔で話しかけるジーン。さっきのツンツンと打って変わった優しい言葉とスキンシップに、チャーリーの緊張は次第に解けていく。

サザン・クイーン号は
キュナード社の船か？

ジーンの部屋はスイートルーム。バルコニーの向こう側に見える海の位置で、上階だと分かる。また、スタジオのセツトではなく、実際に船を動かして撮影

示したのか、暗に匂わせたかったのか。

実際の船での撮影していることは、窓の奥や主人公たちの背景に見られる水面の揺らぎ、月明かりのきらめきを見れば一目瞭然である。特に船首でのキスシーンは、風が激しすぎて見ている方まで風の冷たさで震えるほど、リアリティ。

ネット検索では、撮影当時の宣伝写真を見ることができた。客船シネマであることをしつかりアピールする、大型船舶用救命浮き輪とともに映るジーン。浮き輪に船名はない。撮影に使われた船の情報は、現在の日本では何一つ分からずじまいだ。

作中で、ジーンが「レディ・イヴ」に扮し、チャーリーの自宅パーティに伺うシーンで、イヴの叔父役の男性とチャーリーの母親との会話「アメリカにはいつ来られたのですか？」「3日前です」「交通手段は？」「戦艦です」「え？」「巡洋艦です」にも、戦時中という時代背景が反映されている。

白黒の古い映画ではあるが、ジーンが仕掛ける恋のアプローチ・テクニックは、わかりやすく現代人も通ずるものばかり。男性は年齢問わず、誘惑の防御策を練るためにご覧あれ。

(クルーズ映画ライター あいさわみき)

